

おおはた

## 大畑遺跡 (本発掘調査B)

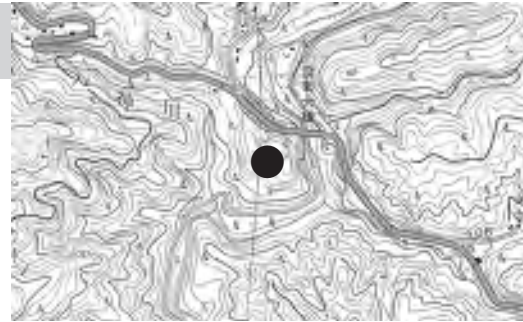
**所在地** 北設楽郡設楽町川向地内  
(北緯35度6分33秒 東経137度33分58秒)

**調査理由** 設楽ダム

**調査期間** 令和4年10月～12月

**調査面積** 2,080㎡

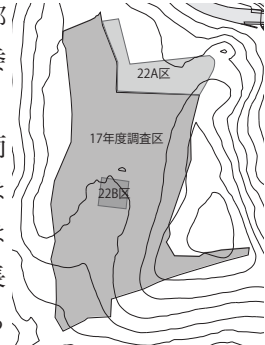
**担当者** 永井宏幸・社本有弥



調査地点 (1/2.5万「田口」)

**調査の経過** 発掘調査は、設楽ダムに伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。

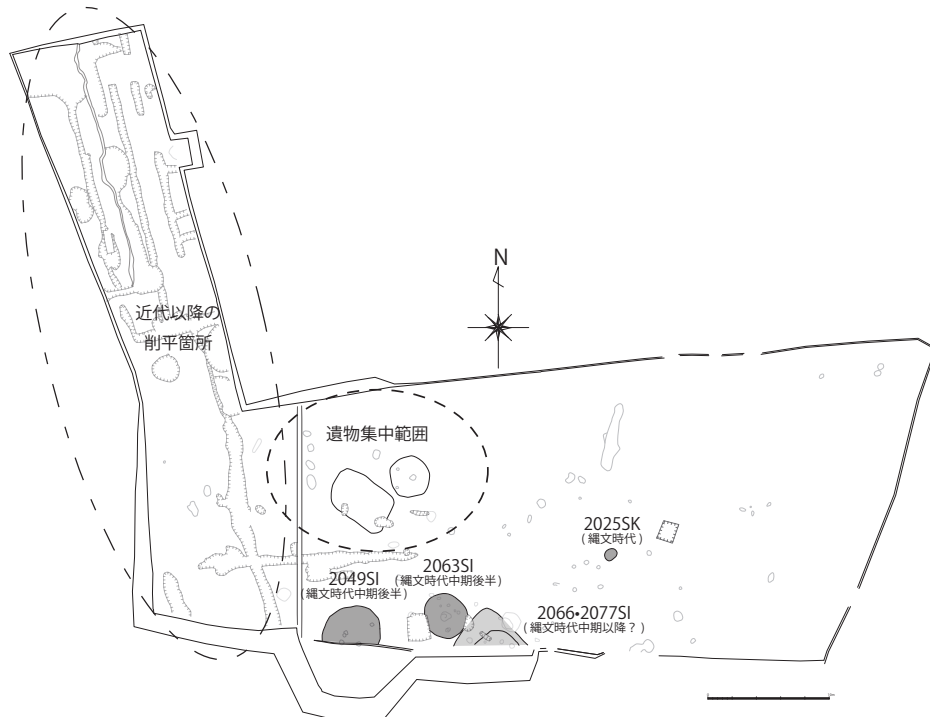
**立地と環境** 大畑遺跡は、境川と戸神川の合流点北東側に位置している。両河川は遺跡を挟んで標高 約370mの谷底を流れているが、遺跡はそこから崖や急斜面で隔てられた山地の頂部に所在し、標高は430～446mである。その頂部には、東西2か所に南北方向に細長い平坦面を有する尾根があり、それらにはさまれて南側へ抜ける谷地形が存在する。



大畑遺跡全体図

**調査の概要** 今年度調査は前回調査した調査区から北東に延長した箇所を22A区、前回調査ができなかった鉄塔の跡地を22B区として調査を開始した。

基本層序は、表土、黒色土層、褐色土層、褐色～黄褐色土層の漸移層、黄褐色土層が確認されている。また22A区西部では褐色～黄褐色土層の漸移層より上が現代の開墾等のため削平・盛土されていた。



22A区全体図 (1/625)

**2 2 A 区** 22A区は東西から調査区中央北に向かって落ちる谷地形となっている。調査区東の傾斜が急な箇所には遺構・遺物は展開せず、調査区中央の緩斜面地に展開していることがわかった。遺構としては竪穴建物跡4棟、陥し穴1基を確認している。

竪穴建物跡はどちらも円形で2049SIは柱穴と思われる箇所はあるが、炉に比定されるものは確認できていない。2063SIでは柱穴2基と炉跡が確認された。時期は縄文時代中期後半と考えられ、前回調査の集落の一部と見て良いだろう。2066・2075SIは角丸方形竪穴建物跡の一部と考えられる。炉跡は確認できなかったが、柱穴と思われる遺構が伴っている。特に2075SIには壁際に排水のための溝が掘られていたようである。縄文時代の遺構と考えられるが、時期を表す遺物が伴っていない。陥し穴は調査区中央東の斜面地で検出した。長径約1m、深さ70cmほどで、中央に杭を刺していた穴が見つかった。平成29年度調査で見つかった陥し穴と一連と考えて良いだろう。

また調査区中央に剥片を中心として、石器が集中して出土する箇所が確認されている。剥片が多くを占めているが石核や折損した石鏃、未製品などが出土しており、石器の捨て場のような場所であったと考えられる。

**2 2 B 区** 22B区は調査区西で検出した谷底に向かって東から緩やかに下がっている。谷底に近いから遺構・遺物の数が少ない。遺構は貯蔵穴1基と土坑1基であった。

貯蔵穴は谷底で検出され、長径約1.7m、深さ約1mと比較的大きい。埋土の堆積状況から何度か掘り返されていることから貯蔵穴と考えられる。遺物は出土しておらず、時期は不明。どんぐり等の種子の類も確認されていない。土坑は長径1.5m、深さ10cmと浅い土坑であるが、埋土から縄文時代早期末から前期初頭ごろの土器片が纏まって出土している。

(社本有弥)



22A区竪穴建物跡周辺



22B区貯蔵穴完掘状況